



魯西要志

全

魯西
600
150



曾 門
600
卷 150

魯西亞志

龍澤文庫

桂川甫周固瑞譯

魯西亞^{ヲロシヤ}は昔^{サレ}沙^シ爾^ル馬^マ夫^フ亞^アと稱^ナされし事あり。

之^シ余^カ年来^ニル^レス^ニテ^ハモ^ニヤ^ハ 符加里亞三人^ニノ^ノ諸^ノ侯^トあり。

之^ノ名^ヲセ^リク^ス。レ^クス^{。ロ}シ^スト^リノ^コロ^ニヤ^リ 符加里亞之^ノ地^ニあり。

之^ノ俗^ハハ^シク^シト^シ。鼻^ハの^ノ毛^ハ多^クシ^ク。歸^ル今^ノ此^ノ波^ハ赤^シ希^キ亞^ト 符加里亞

之^ノ地^ハ 符加里亞波^ハ羅^ハ泥^ハ亞^トノ^ノ魯^ハ也^ト。ロ^シス^ハ乃^チ 符加里亞ノ^ノ國^ト 符加里亞

之^ノ王^ハ乃^チ 符加里亞ノ^ノ國^ト 符加里亞ノ^ノ名^ト 符加里亞ノ^ノ古^ノ俗^ト 符加里亞ノ^ノロ^シス^ト

又^チレ^ウス^トラ^ニト^シキ^ト 符加里亞 符加里亞魯^ハ西^ハ亞^トノ^ノ特^ト殊^トあり。魯^ハ西^ハ亞

符加里亞



用玉を不徳く法をあらうとせしむ人との罪よ
かり各を服多とすはしと三列を以て
こしとローテロスランド赤魯西より波羅泥亞の一列
分る地あり其二とウイウテロスランド白魯西より
リタウエ波羅泥亞の地あり今とスモリスコの下
属ありこしとスワルトロスランド里魯西より魯西
亞の地あり即模斯哥未亞し但此名を竹の
後かまを詳せびと都城の名を模斯哥鳥と
りてを以てしとをすべしとす

今世赤白黒の三列を合せし一也魯西亞と
稱するは年曆千七百廿一年享保六年より
帝皇と稱せしヒイトルといふ帝より稱

幅員

魯西亞の本心と長サは百餘里と廣さも同し
近才亞細亞列の大靺鞨の小田を侵掠し即ち
中廣大の地ありとす幅員幾倍といふ事と
三つに上りて雪降亞の地を併ししと地
廣大の事世界よ是と稱しとありとす

積々亞細太嶺耳運送ス

△ 大乃河タイ一石ハ其原々レサシの地より出ル小筋紐

と云々迂曲々々墨河の湖々運送ス入

世河底由多々水河々又春のハ水乃積リ

發スの事勿ル瓦河と云々一時々大嶺を

月山々流也と運送ス

杜亦拿河ドウイと源一カミアルカケル地の地

二流々々々白流々々々

△ 阿比河小水河々々々々々々々底々々

魯西亜也々々單々々々々々々々々々

多々々々々々々々々々々々々々々々

多々々々々

本玉河々々々々々々々々々々々々

ソル帝子ガ湖ラトカ湖の方凡十六七里

△ 尾閣々々々々々々々々々々々々

高松のをり々使あり々々々々々

木々々切法の大々々々々々河流と云々

々々々々々々々々々々々々々々

隣界 北々雪降亞西々彼度示亞 南々度示格^ト東々

大韃靼と境を接し、近時亞細亞列の氷河と

吞併し、こゝ支那百^ノ西^ノ亞^ノも其境を接し

凡^レ土 此邦幅員廣大^ニ、^ニ數^ニ百里^ノあり、

其氣候のまはち地の肥瘠も一やうなまじ

く大較と各々、西の方彼羅爾亞の坂より下を

最々暖なり、^ニ其^ノ南^ノ部^ノは尤^ニ二十^ノ列^ノ穀^ノの

數^ニ三十^ノ余^ノ里^ノ通^ノ國^ノの程と供^ニ、^ニ其^ノ北^ノは多^ク、近

隣^ノの法^ノも、^ニ其^ノ南^ノ部^ノは尤^ニ二十^ノ列^ノ穀^ノの

地を^ニ其^ノ北^ノ部^ノは尤^ニ二十^ノ列^ノ穀^ノの

地を^ニ其^ノ北^ノ部^ノは尤^ニ二十^ノ列^ノ穀^ノの

地を^ニ其^ノ北^ノ部^ノは尤^ニ二十^ノ列^ノ穀^ノの

地を^ニ其^ノ北^ノ部^ノは尤^ニ二十^ノ列^ノ穀^ノの

地を^ニ其^ノ北^ノ部^ノは尤^ニ二十^ノ列^ノ穀^ノの

地を^ニ其^ノ北^ノ部^ノは尤^ニ二十^ノ列^ノ穀^ノの

地を^ニ其^ノ北^ノ部^ノは尤^ニ二十^ノ列^ノ穀^ノの

地を^ニ其^ノ北^ノ部^ノは尤^ニ二十^ノ列^ノ穀^ノの

地を^ニ其^ノ北^ノ部^ノは尤^ニ二十^ノ列^ノ穀^ノの

地を^ニ其^ノ北^ノ部^ノは尤^ニ二十^ノ列^ノ穀^ノの

地を^ニ其^ノ北^ノ部^ノは尤^ニ二十^ノ列^ノ穀^ノの

地を^ニ其^ノ北^ノ部^ノは尤^ニ二十^ノ列^ノ穀^ノの

地を^ニ其^ノ北^ノ部^ノは尤^ニ二十^ノ列^ノ穀^ノの

わが國の林は入る二木の間にシキ
とさみ會うと押と吐ハキと又再び吟
車とさみとの又鞆靴休座と果樹とて
名べへモツトとらふて齒甚大ゆとら
げゆ磨先とる滯白ははけりと農
きま象サカヤとに海の中魚板を盛る
乾脂と法フの學校と送る牛乳の食用と
但鯉鮒の類々甚希なり果實の類々
とのる瓜の大なりとの菓サニ口介ゆ

このやう葡萄^{ぶどう}は希なりへトル帝の時
セルの右河辺より移る法方植
か亞細亞其の地は古來とて他
多く蔓行する丈夫と多く美
木と植ふるは蔓花と木漆蚕綿
是多の好む花と織物を製する
料と此州と交易するは皮革中皮
醃肉牛脂蠟燭草麻蚕糸あり

○東魯西亞の併と有る歐羅巴亞細亞二大洲を

とて今も五部と云

一 イニゲルミランド 濃勿泥亞 舊雪際亞の

地あり今魯西亞中併せり

二 西魯西亞 帛本山の西方一山の總称

三 東魯西亞 帛本山の東方一山の總称

四 魯西亞 峴皮亞

五 魯西亞 雜類

右五部の内縣府を建酋長と云ふ不十二部

- 一 諾勿瓦的亞
- 二 アルカゲル
- 三 護新可馬

四 ニスノウゴロド 五 スモイレシニコ 六 キウラウス

七 ヒイロゴロド 八 ウタロ子ス 九 亞松跳耳

十 オレブルグ 十一 加山 十二 シヘリイ

インゲンミランド一名インゲンの地とミランドの地

ラトカ湖の地あり幅員六十六里地頗る大

なり高嶽亦盛なり西六十里と云魯西亞

の有り今も中ハ雪際亞の地あり七百二年

元祿元年に魯西亞を併せり今魯西亞の地

王城と建ッベテル帝の建らと云ル也也ハテ

各社養と極々茶局より昇平の月茶を勿偏
外山兵部乃珍美の形好も備りて書きたる
美と皆支那乃磁器とありて収貯の亦この
清とアドミニテリツ清とありて後れ部とありて
口乃大況とありて圍とありて内と接圍
とありてね夏自果とありて下と例と大あり
園とありて内と接圍とありて水裁とありて噴水
とありて子七百とありて^{室曆}五^五層の橋とありて
悉く画棟漆梁合碧目とありて茶とありて天下

偉觀なり又馬廐象廐とありて各百尔西亜と
産の物を奉養とありて慈とありて其他階と
治工舟造甲冑書司有用の百工備りてその
か一夫との形とありてリクスとありて街と
土俵とありて竹木とありて浮梁とありて二階
酒の浮梁の長サ六百余間へテルオ二世の帝乃
造られりて海とありて園とありて宮室とありて
夜々皇土とありて舞とありて新ありて者とありて
大庫とありて貨物とありて船とありて茶局とありて

そ長と設ク他世ニルガラドカ両湖の間河道
隘ル〜大松を〜グ〜今程も
常々〜文島の使ち〜ペテル帝乃
詔め〜千七百十八年^{享保三年}ユと起して湖の
間十六七里が程と度サ七丈餘サニ丈の河を敷
き〜千七百二十二年^{享保七年}女帝
P十の付〜成就ス河の丁丈ニカヤ
人と引ひ〜是より法島の運送公のまゝあり
より土地の敏名昌宏麗の〜り及が

近隣の諸国しもの海にそぎり〜百廿
三事業の大あり事業佳の存まの作ら〜の
カ
△ 澧勿泥亜^{レイフランド}ハヒンランドの海濱中隔〜西々
窩々^{ウラスティカイ}所徳海^{スウェーデン}際〜南々コウルランド中隔
東々ブレスコウ諾示勿入亜中隔ス南小〜り
百余里東西六十四里・土地甚肥沃〜最
法穀^{フランス}〜坂^{サケノカ}西土の穀中北方乃穀害と稱ス
又多^{サケノカ}過臘魚比目魚鯉拔魚根莖エラニツレニシル

鹿免と鹿ス高産と又他の邦より〜
其下島あり材木々松樅櫟最多く〜
と木の〜西洋の屋室々多く石亦礎礎也と屋と造り
此百年来々樹々材を伐り〜田畑と〜
〜文和のとの大麻苧瀝青蠟蜜ホトウス
皮革の穀あり

△ 西魯西亞 此地〜
可爲テウニルロスーウヤレスラウヒローラーセロシマ
傳羅得抹尔。以上七道中土ゆかり

△ フスコウ ビールスキ レスコウ スモシスコセハイ

△ ケセルニヤ ユツライ子。以上七道西方ニあり
諸勿瓦的亞 カルカホル 杜亦拿。以上三道北方有

△ 結羅答 ニスノホコロド モルトア。以上三道東方有
ウラロキニレサニホル。以上三道南方在リ

△ 謨斯可鳥 魯西亞の中土ゆ在リ其首縣を歸ナ
ムスコウとムストウ河辺あり心極五十五度三

十六方の地あり千二百年の〜
歐羅巴一乃大城の周圍十余里居人凡

十五ノ其内と云ふは石垣と築き溝とあり
固ノとの皆赤き石あり砌より三層ノ城構と
建うべ溝と云はれり海子園あり又園
圃と設け臺榭言構皆五色と云はれ彩り多し
噴水と造りて泉胸と云はれ又六ノ寺あり
芥一とソボルと云はる宝塔の坐皆鍍金乃瓦と
月山門外と皆鍍金の法板と月やまにり
天日と映し光輝恍惚と云はれ眼と射り
芥二とシントニールと云はる魯西亞の庵所あり芥三と

法王后妃の寺あり世下構と云はれ子ニスリートと云はる
内街と云はる街あり芥四とキタイコロと云はる又支那
街と稱し口圍り石垣あり夏ニ象殿と云はる
欲構と云はる建つて涼屋堂と美石と云はる
砌より又石橋と架りてビニ子ニスリートと云はる
其橋乃製鐵造極りて精好あり内中武庫と云はる
書肆茶局と設け茶室と云はる石と用ひ最善
美と云はる又易力大廊六十余あり支那乃
貨物と取捌き支那街と稱しあり芥五と

ヘルゴロといふ又白街と稱す周圍白石と云々
 石段と造りしもの谷背とあり城のくまら
 半月のくまら半百工高實傳のくまら
 又本匠もくまらと云々屋と造り其とあり
 わり正殿鏡と製するありて代旅舎客店
 ありてくまらと云々醸カキのくまらビール西ノ谷
 心止味其ありてセソラナイゴロドといふ
 園り堤と築き二ツ石川あり度教測量ノ星授
 わり世不屋室皆本と用ありて時々大星あり

- △ テウエル 勿尔瓦河原あり舊別首長あり
- △ 今々諾勿フボゴヒト的亞の所属ありヘル帝のテウエル
- △ サセナ両河と繋通しありて今々里あり
- △ 小言あり富と行徳海と松とをさし其あり
- △ ロストウ 護斯可コク鳥のくまら豊饒の地あり
- △ ヤレスロウ 勿尔瓦の河原あり
- △ ヒイローセロ 勿尔瓦の西小に在り古と別し君長あり
- △ 今々護勿瓦的重と属あり
- △ 之エスダル 亦勿尔瓦河原あり

ワロジツル

△ 信濃の抹赤 勿志尾オカ右河の川在りや

流殺を産す今ノ漢新可為り属し

△ フスコウ 濃勿泥亜と境と接を子_{元正}百四_{元年}

より中_{元正}心_{元年}を属す

△ ビイルスキ 波臣泥亜の境在り

△ シスコウ リタウウエシの境在り

△ スモーレニスコウ リタウウエシ中_{元正}坂_{元年}末_{元正}中_{元正}波臣

泥亜と世_{元正}地_{元年}と_{元正}あ_{元年}る_{元年}て_{元年}教_{元年}友_{元年}合_{元年}衆_{元年}と_{元年}主_{元年}旨_{元年}

八_{元正}十_{元年}六_{元年}年_{元年}一_{元年}三_{元年}年_{元年}一_{元年}中_{元正}心_{元年}を属す 縣_{元正}府_{元年}を建_{元年}す

前長と云ふ

△ セヘリイ リタウウエシの境在り

△ ケセルニユウ 波羅泥亜の境在り

△ 孫_{元正}勿_{元年}瓦_{元年}的_{元年}亞_{元年} 小_{元正}雪_{元年}際_{元年}亞_{元年}中_{元正}接_{元年}也_{元年} 一_{元正}ヲ_{元年}ル_{元年}カ_{元年}ラ_{元年}ト_{元年}カ

支_{元正}胡_{元年}の_{元年}ア_{元年}ル_{元年}と_{元年}云_{元年}ふ_{元年} 縣_{元正}府_{元年}を_{元年}建_{元年}す_{元年} 前_{元正}長_{元年}と_{元年}云_{元年}ふ_{元年} 中_{元正}心_{元年}を属す

の_{元正}洲_{元年}を_{元年}云_{元年}ふ_{元年}と_{元年}云_{元年}ふ

△ カルガホル 白_{元正}河_{元年}と_{元年}接_{元年}を_{元年}諾_{元年}勿_{元年}瓦_{元年}的_{元年}亞_{元年}附_{元年}属_{元年}す

△ 杜_{元正}示_{元年}拿_{元年} 杜_{元正}示_{元年}拿_{元年}河_{元年}の_{元年}白_{元正}河_{元年}の_{元年}境_{元年} 河_{元正}の_{元年}境_{元年}と_{元年}云_{元年}ふ

あ_{元正}る_{元年}人_{元年}ノ_{元年}ア_{元年}ル_{元年}カ_{元年}ン_{元年}ゲ_{元年}ル_{元年} 縣_{元正}府_{元年}を_{元年}建_{元年}す

△ 傳羅魯 アルカシゲルニ所屬也

△ ニスノホゴロト オカ河ノ勿重瓦河の合分所也

カリ今別ノ酋長と云ク

△ モルドア トシラカ右河の間あり

△ ポル 韃靼界あり、此地甚廣大なり

△ 東魯西亞 南北韃靼を掃く地極々豊饒也

△ ウラロキニ 韃靼の境あり

△ 東魯西亞 此地は七道と云ふ所傳

メツセン ペトリラ ヤレシスキ 白尔米牙^{ハルミヤ} ニストコラ

ウイアドスキ ケセシニワン

△ メツセン 白河のほとり、のど心多く、毛の地、但し

△ 林木多し

△ ペトリラ 地は際際、ワイカットの所、峽、

のど心地、廣く、茂林多し、人居希し

冬候極々寒し、河は氷凍、周年解けず、

ケルニ屬ス

△ ヤレシスキ 地多し、峻山、茂林、皮革、

賦税、

△ 白^{ハル}米^{シヤ}丹^チシベリイと壤と接を^ム漢^ス斯^コ可^ヲ鳥

とま^ルま^ル二百三十余里^ハ海^とを^横切^る塩^とを^割る

そ^のと^の二^方人

△ ユストラ 杜亦拿^ハ何^年あり^地也^も又多^く

茂^林の^中に^人居^る

△ ウイアドスキ カサニ^は属^す

△ ケセルミリン 韃^靼の^界に^在り^土人^を村^とす^る

△ 魯^ラ西^グ亞^シ蟻^{アリ}皮^シ亞^ト 此^地の^後々^詳々^雪降^る亞^ラ

巾^のの^も白^海の^河岸^魯西^亞に^属す

より^カン^ゲル^の酋^長の^部也

ムシ^シス^コイ^シポ^リイ^ラル^スコ^イシ^ポリ^イ

ヘ^ラモ^ルス^コイ^シポ^リイ^{以上}歐^ロッ^バに^属す

△ 魯^ラ西^グ亞^シ韃^靼 此^地々^亞細^ア亞^細の^北境^に在^る

亦^魯西^亞に^属す^地

△ 小^ト韃^ト韃^ト 歐^ロッ^バに^属す^地

又^度ル^格に^在り^大韃^ト韃^ト小^ト境^に在^る

魯^ラ西^グ亞^シに^属す^地

達^旦より^魯西^グ亞^シに^属す^地

却て歐羅巴の地より西へ度大く東西
凡千六百里余南に凡八百里余を風俗も一なり
ありて南方の地歐羅巴の地を似て地もさ
頗る肥沃なり其地よりなるに東山の地も多し山林
曠原ありて不毛の地多し一ヘリの傳説に不
の

此地の度大く東に左の谷地を候き推考なり
一内本なるに縣府と云く西に切なり
十二の内九以下なり曰く西にカサニ

オリシベルク シベリ 亞松太嶺 耳 世亦高砂山
小狩り地なり

△カサニ 此地は勿尔瓦河にあり加馬河此
地中分と流しなり勿尔瓦河に入る此河
相合し是人の物とす此土の人他の難し
此の地は稍禮節と解く地肥沃なり其物
豊饒なり舊に此地は君にありしに子も百あり
二年 天文 魯西更に本条ありしに後縣府と
建前長とありしに此地は舊のカサニ

此よりが教信の地とあり又ブルガルの地と
 りと度^{ルカ}市格の所轄ありては商長と通
 今もカサニノ市属ありカサニ昂地^{ルカ}の首縣
 市街屋室頗華麗と勿尔瓦河
 里あり貨物と運送して度市格と夫文^{ルカ}の
 かも商人と女の人と軒子と軒居とと城郭と
 石あり物成りては他の塞柵人ありと皆あり
 月ひき造り寺觀あり石あり造り
 早九年^{寛文}五十二年^{宝曆}六十六年^{天明}大失

めく人衆悉く焼失あり

- △ コサイスリ 勿尔瓦河の岸に在り
 - △ マルメイリ カサニノ西に在り
 - △ サマラ サラトリノ河岸に在り勿尔瓦の支流に
 - △ キムテ 勿尔瓦河の岸に在り
 - △ フルガル 加馬河の近傍に在りカサニの西サ里
 - △ ビイロイセル シンビルスキ セイルサン サラトウ
- 以上皆勿尔瓦河の岸に在り小邑あり
 フレベルグ 今魯西亜ノ縣府と建り地

實由天遠あり其奇觀と云ふ又大川ありユラルと
多づく玉石瑪瑙の属と云ふ

△亞松太嶺^{アスマタラント}地と云ふ海岸勿尔瓦北河より
あり千六百六十四年^{天文廿三年}魯西亞中併せり
此地頗る豊饒あり此地の風味甚美ありペテル
帝の時レイニムセルの地より葡萄酒と移し植へ
今甚繁街々其西の方里海よりあり和々皆
砂地あり塩を涌出せ大陽を晒し自ら鹽と
結成し人多く練草と云ふ光明透徹水晶の

ごくありその味も甚貴く又一種
の奇草と云ふニコニコロイト^{羊草ト}と云ふ草と
抽く實とありて味宛たり羊の毛と云ふ
毛と云ふ且其傍の草皆獣の嚙りたる
ものも實と割る赤けり血の味も味ひ
ぬぐふ又勿尔瓦河の河をめぐりスラウルと
云ふ魚を捕りて子と魯西亞海ありイクリと
云ふ法邦より販賣する最度大なり文のありて年
和業人一人ありハカシキスドル^{金銭の名}のイ

和業人一人ありハカシキスドル^{金銭の名}のイ

シリと買つて来たもの

△^{アス}亞松太蟬耳 即此地の首縣あり勿尔瓦河の

河にドルコとりよ流るあり人長稠密あり

都城あり周圍一里をめぐり多く款括を建てる要

害農重なりとも宏麗花美甚奇觀なり城

門十六圍より石壘を以てを小徑早六度中二

分の地あり氣候きわまり冷あり六七月より

とも暑となりて冬は極まり愈まり勿尔

瓦河のほとり最大の川がらんれ一面に氷凍

堅凝して車馬は行かず昔は度々

亞尔默泥亞^カ西^{シヤ}印度^カの^カ人^カ世^カ地^カを^カ多^カり

交易のゆゑに百貨を駢集し人烟輻湊あり

亦一般富の地あり土人地をめぐり交易の

貨物あり

△カリセイニ勿尔瓦河岸の山上あり木柵をめぐり

城あり

△カラスノイセル ツケルノイセル並み勿尔瓦河

岸に在り

△ヤイツク ヤイツク河岸ゆわつち魚とぬきてた業
 とぬき又カヒヤルとぬきて交易とぬき
 此地とトンカウ瓦の古大河の原とありて舊ト
 ラステカミシニガとありて山流ありて一とトニ河と入
 一とカウ瓦河とぬきて一と川と流ありて二里とありて隔つ
 手と百年来一と年トペテル帝世と河と鑿通と
 ペテルスベロクセトカ湖とありて松とをぬきてウラル
 コハ河より諸カ瓦的亜と流りてウエルより勿
 尔瓦河と出新河道よりトニ河と入夫よりアリ

ウハより黒河と流り公新當下那令度令格
 ぬ抵り地中河とぬきてバル徳峡イェロシスの都名
 より諸左里亜子デルデンドの海峡とぬきてアウル
 ド海と出ソンド湾より窩々所徳海と入りて再
 ペテルスベルクと帰るに間迂曲轉回凡四千四
 百余里三年とぬき一廻より此松路のぬきけり
 一と歐羅巴諸国文易の便とぬき一と一と一と
 一と倍より皆ペテル帝乃賜とぬき
 △シベリ 名義幅員隣界

韃靼治りくムトリンエニセイスコイの道
より河より其洞大り
度千六百七十托 西洋一托ハ
日中七八寸 春夏の川水の漲り
多し其地地方のものは比し其地より
多し

△シナ河 迂曲し流る事二百日果
小の方水海に流る河津 巖石多し進多し
其峻難し

常々水凝る

△アムール河 カムシカツトカの小より シニトールマス
峯の東より大東洋まで

里流に一石アムル又アムウル又サカリイこと云
そ河の東の方サカリイ島あり其流ハ
百余里魚蝦をばし

風土 此地甚度大なり其候も一様なり
南の方より西南の方より頗る肥はる東水
の方より多し峻山曠原も焼礮不毛

あり又草實を産ひて土人只赤魚枯籠
のこも産といふ方と地をきりて海を
一帯の沖多くと為る氣候も河川等々
水は地より湧き出ず不陸夏は涼しく
洲ありては古くは地上の泥去り二天
ありて多し木は産をきりて北は
荊榛善産ありては南は南の
方と高産を産ありて牛馬羊等あり又諸穀を
産をきりて毎日本方諸州に轉送すて外此

馬鹿の類多し皆食料に充つ鹿鹿
牛は羊にゲニエラコワレニゲイル
鹿は免根里
白熊玄狐又狐の背より馬を十文字
ありサベルスベルといエシ。マル
テルス。ウエセルナイス。
早キホル。水牛ロウセン。ウエ
テビサス。麝鹿あり
又多く皮草を産す我申玄狐サ
ベルスと諸州の
名品といふ土産の皮草を本
島に輸し
歐羅巴の法を倣ひ價も又高し
貴し
此地に本島にも名産あり

死罪のもの又と裁開め〜糖を〜人
句を〜サベルスマルリス等と捕ら
それ〜食料の給を〜を穀と〜定
判あり〜商長具〜急掠〜牧の〜
〜の〜得と知〜〜地産あり
〜の〜は〜の〜も多ク
あり〜し去度〜蜜坑半脂へ〜ケル
皮革等と出る是を支那特産製組大
大匠臣の〜と〜

保有

前時此地を噴港製組と稱し〜
〜の〜を〜の〜
既後〜〜
阿比行〜の〜
東洋の〜を〜
アトル王の〜
既後〜
やまび他東南モ〜
屬々依〜
子百八十九年
元年
二年

是より... 此地に極む十八夜
十二合の地を府城を山の上を建りてこべり
の大商長は地をかりて千五百六十一年天文十の建
りて城あり入る馬泥亜の子を収めり支那
印度あり交易あり高貴の地を合し
防冠軍防冠軍ヲ番呼。○渡道を行くは
すまの事あり此の輻湊一際あり
貿易ありものあり土地を殷富めり
糧食あり後きちの土人の産業あり

- △ 鄭島... 衣食之...
- △ 十子リスキ... 十子河岸よりカクホ柵あり
- △ 城と人居住三百家
- △ ベリウウ... 河は河岸よりカクホカットの海
- △ 湾係りホ柵あり城あり
- △ カクリ子シベルグ子七百廿二年宣統年へテルキ
剣あり縣府あり宣統年宣統年宣統年
カタリ子の付あり城あり地あり
名ありイセワト河其地あり河は臨り

後より患をなすも、あはれに城をづき、
られを防り、世に、淡山あり、世に、
渡り、あはれ、人、集り、
又病院、学、院、客、店、あり

△ ナイシ 阿比の、心、推、
市、欄、の、城、備、

△ トムスキトムの河の阿比河、
府を、建、
と、出、

葛、亦、莫、奇、と、互、市、の、大、城、あり

△ ツス子スウ、
心、上、好、じ、又、焼、耐、と、
え、ッ、ナ、レ、イ、ム、以、下、の、
ト、ホ、ル、ス、キ、も、属、す

△ ハフハ、阿比、イル、
九、年、
セ、リ、士、
年、

△ 正ニセイスキ トボルスギの赤あり正ニセイ河
此地乃申ふと流れし海入る故よ地
名リヤサモイデシありし百九十四年文禄
より六年までのがり整其の人と赤あり午度
の地方とあり道とおく始り此地
ありし地と少極規内は係り極
後をあり

△ 正ニセイ 正ニセイ河のありし海の人と赤あり
極短し 醜極ありし面も直あり

目長膨脹云と合し一夏を魚皮
と服し 糸と糸皮とあり一枚の
糸と糸皮とあり糸も固し糸皮
肉に住し糸は別人せし 臘肺を
枯魚鮓肉と食し又一種の青人ありト
カシ何は糸皮とありトシグと稱し人相申
る 西より糸皮の目も糸皮の
申より西より糸皮の糸皮と稱し
文より糸皮の糸皮と稱し古と糸皮

何名の牛馬羊と養ふ衣履と牛馬の皮を以て
るは牛馬羊と養ふ衣履と牛馬の皮を以て
男子の髪を剃り女子の髪を結ぶ物と美を
サへりともく皮と云くは髪と云くは性程得
強異なり熟肉及び生肉と食して肉を何と
云くは食しては氣と云くは力と云くは骨と云くは

△イルクスキ 丹列の首縣ありてはるる一宮一而乃
酋長其地を一人家千余家と云くは大坑
十六川を流るる水は酋長に属するは其地を

支那の酋長と云くはスナグ他邦の酋長也
地はくは中よりとも格別な價値ありて人
其地をくは又酒を好む

△イリムスキ イリム川を流るる水は其地を以て
の地を其地を鏡鏡繁盛なりて南に大湖
ありハイカル湖ありて多しサベレと云くは
湖ありて水は多しなり酒を好むは其地を
のサベレと云くは黒色あり

△ブラナ アシカラ河を流るる水は其地を以て

ノ 東の 牛 大文 勿

△ セリシギレスキー セシニガ河 子

六年 城 支那 轄 轄

固ソ多リ 倉庫 兵器 器械の兵

席と走り 円 殺

△ エチスキ 六河 流

東南 支那の 法 法 殺

豊 焼 價 拒

△ ユルシスキ 王 小 極

の 子 年 城 部

支那 疆 國 世 小 系 文 凡 乃

使 節

△ ヤクツキ 十 河 極 一 度 亦 綱

城 其 地 魚 蝦 多 去 地 田 畑

ソ 農 業 事 業 火 火 カム 火 火

の 地 乃 下 轄 今 火 火 コ ツ コ イ の

酋 師 之 属

ノ オレクシスキ。ウレシスキ。並ニシナ河の南に在
 △ オコツコイ 其地廣大なる事一と云り亦此法
 列の最天と云ひ此地は此河より南にカム
 シカウトカ河に臨み土人佛教と云ふ事一と云
 縣を以て極東を度ペテルスベルグより百十二度
 半ニ分ちて南に此河より船通と云ふ事一船を
 造りてカムシカウトカ河に臨む

△ ユカケリ 氷河に在り。〇ツクニツキニ
 ベリの亦此河に在り土人等頗る難達と云ふ

小川の付るに孔ヲ穿ツ

△ ホルトルスキ カムシカウトカの東南に在り此地
 従来此の地は極東に在り拒絶せし事一と云
 近隣の法列本に属するに依り今之
 賦税を以てする事一と云

△ コレイキ へシシスキの港に在り此地は昔に
 廣く土人等より居たりと遷移し定住の
 事一と云 土人等は皆
 死すれば其屍を焚くシニニイルヲ多ク居る

ノ 年々母二万二千と云ふ

△ ユゲスキ 北極五十九度二十分 支那と接す

△ アクテスキ ベンシ河存する北極六十三度
三十分の地也

アナジルスキ 赤心湖アナジル河存する北極
六十三度五分の地也 服後セシ地也
ハニシ 大句の半島也 三面東海一面陸地 イルクツキ
の属也 カムシカウトカと云ふ地 大河あり
カムシカウトカ河と云ふ北極五十六度三十分の地

ノ 流々 大東洋に注ぐ 故に此地を名

ノ 日中あり 眞樞美と稱せし地也

北とニベリ由坂と接す 又五十九度三十分の

地はプスリヤと云ふ河あり 西の流々ニ

スカヤの海濱に在り 其野の地を其が統

略する也 此地はあり 山と東の海濱に

も西の海濱にあり 南は五十二度

四ナ里 其南流の地ニクルリスカヤロハチカと

シヤの地ニ十一度三分の地あり ペテリ帝乃

走られ〜ペテルベルクの都より五百七度
東に去る。世代山多ク中かの地と一帯連
綿と〜皆山あり悉く石山と〜石も乃
地なり中〜なる大山あり〜
畑と吐キスル〜畑と吐キスル〜
アハヒニスカヤと〜ツとキルハヒニスカヤと
カムシカワトカと〜山と〜
日〜と〜十里の外に〜山乃肺園り十方
五子丈^{四十一里}山年が支三度所と噴出ス

車在りけ〜多ク在り多ク時々八十里
余方灰と〜
十年^{元文}大の噴出〜石及び行〜
破子^{備中}〜
白〜
向り一里許の程山名〜
〜
〜
〜
〜

度四ナカ里作^ルサと二十^ニナルステ^ニ皆里^ニ至^ル
硬^ク石^多地^多晴^ク日^多無^ク雪^多
小島^{あり}香山^{あり}も^{あり}山^{あり}側^{あり}も^{あり}山^{あり}の^{あり}又^{あり}是^{あり}
北西^ニ聖利加^ノ山^{あり}の^{あり}

△チラメニス 活^ク小極^ニチ^ニ七^ニ度^ノ地^{あり}

聖老^{カウ}標^{カシ}祖^シ島 亞細^ア亞^シの^{あり}東^ニ小^{あり}隅^{あり}の^{あり}ア^{あり}ル^{あり}
千^{七百}廿^八年^{享保}ベル^ニグ^格格^ニ地^{あり}の^{あり}又^{あり}
も^{あり}人^{あり}の^{あり}後^{あり}再^{あり}地^{あり}の^{あり}
ヘ^リグ^スハ^多ク^クの^{あり}後^{あり}と^{あり}の^{あり}

小亞^ア里^シ利^カ加^ノ西^ニ北^ニ極^ニ十^ニ度^ノ地^{あり}と^{あり}
活^ク小^{あり}後^{あり}ワ^キル^コウ^{あり}の^{あり}又^{あり}小^{あり}亞^{あり}里^{あり}利^{あり}
加^ノ西^ニ北^ニ十^ニ五^ニ度^ノ地^{あり}と^{あり}又^{あり}千^{七百}廿^八年^{享保}
三^年聖^曆なる^{あり}の^{あり}餅^{あり}の^{あり}油^{あり}の^{あり}
ツ^クワ^キの^{あり}尺^{あり}と^{あり}七^ニ十^ニ四^ニ度^ノ地^{あり}と^{あり}又^{あり}
南^ニの^{あり}一^ニの^{あり}海^{あり}峽^{あり}と^{あり}北^ニ亞^{あり}里^{あり}利^{あり}加^{あり}
の^{あり}西^ニ隅^{あり}と^{あり}亞^{あり}細^{あり}亞^{あり}の^{あり}東^ニ小^{あり}隅^{あり}の^{あり}海^{あり}峽^{あり}と^{あり}又^{あり}
千^{七百}廿^八年^{享保}の^{あり}海^{あり}峽^{あり}と^{あり}多^クク^クの^{あり}後^{あり}と^{あり}の^{あり}
千^{七百}廿^八年^{享保}の^{あり}海^{あり}峽^{あり}と^{あり}多^クク^クの^{あり}後^{あり}と^{あり}の^{あり}

のいふ事をもとにして

△ 古くは山脈の他は心もあつた

亜細亞歐羅巴の境の間に在りトシ河の流一軌

阿爾卑也接ある地脈方形中

大小鏡細より互に裏と往り地あり千七百

亦二年宣統ペテル帝世世と保とる

△ 止雨加止印 幅員百七里一ふと魯西亞接

一ふと契、利手と属す

去俗と田植農業とる 又畜産と養ふ

世世の婦人極り美麗中 昔は郭振

の衣はたつた 粉飾の田々教とよふ

良馬と産むを更後 極も又貴

△ クバシ アリウの西隅より一度而後の下

属ゆる魯西亞の

帝の世より女帝宣統アリウの世千七百二十年宣統

ゆゑに

△ カハルチ子 亞細太臘其の道傍に在り大小

二ふと分り

△タケスモ 北の海岸に在り白布西里と壤と傳
土人田を教と奉出蒙り其地を以て牛馬と可示
西里と大文易と云ふ其物も亦るは
船の轉輸

魯西里
人物

土人長大の容儀陽の如く土性恭敬
和雅の言は果敢の言は
高き心願を以て其業を
魚販の属を授けしつゝの如きもの
の後多きは教則に又極陽の如く知るもの

おのり食を以て常人の類を
喫して只鼻烟と月也軍人の類を以て
して授けたりは言はるるつゝ亦其
其事を不ぬ他邦の事と云ふ
その如きは馬車に
重なるものを探り月也十年余其邦と通
歴し其の如くは
すまじきもの成りたるは
月の如きは其の如くは
入示馬車。拂席

の制とて其の心華を著す楚の老人の臨を蘇
布とて其の俗人の整とて必利とて家毎に俗
傷を没くは路とてあしはれ儀とてさし
屋臺美用と多く唐の俗但臥室木の葉と
洋の俗言俗とスラモニヤの俗多特わたり
多し今とて凡カ西亞の俗多し月文多
カバヤとて俗多由とて航の俗多
し今とて凡カ西亞の俗多し月文多
の美とて酒俗多し今とて凡カ西亞の俗多し

十後女帝アテの俗多し水鏡 陸鏡
中 蘇林多し 度示格 韃靼 亦の俗多し
教及金銀 星雨サバチセは乃大義と
ニ十九年 元文 中 凱旋 亦の俗多し 我國の
私 亦の俗多し 女帝アテ 明帝の俗
行 亦の俗多し 女帝アテ サバトの俗多し
多し 亦の俗多し 古俗多し 新俗多し
俗多し 亦の俗多し 風俗 格別 善良多し

当人の女帝カクリナ中斗〜〜漸子土地と
唐より教化も何〜〜盛りの古々婦人乃
胎を子孫ありしとペテル帝入^{セル}馬^ニ陀^ニ東
の服を用ひて風体と字が〜但白粉を用
ひて西多の赤キと以て華ありと云

教法 尼カ西亜の教法を奉〜〜子六百七年^正
尼カ西亜の教と原〜〜護新可島^ニ教堂
と建つ小兒は各々の法々^馬人^ノの〜但共
兎のひ上りし水と確^ルひ^テ今^ノ水と浸^スと

果ありしは年長の人化教と推して名を改め
先づ教師の法方を執り事字二百〜後亦乃
法多ゆりありしは〜人^ノと^御〜吐^キ〜
古年教法と推して貴^ル〜
〜^解〜^後本^ノ衣^ノの^服と^云〜^以〜^也〜
〜^手〜^捧〜^け〜^し〜^夫〜^七〜^日〜^乃〜^不〜^自〜^己
の^之根^と結^り〜^水〜^浴〜^後〜^名〜^を〜^改〜^め〜
〜^天〜^教〜^と
〜^又〜^法〜^と〜^易〜^か〜^る

△ 屯盛の兵と互市の場のペテリスバルツと景と
 △ 茨那の文とカキ又おびききし事と彼らと
 △ 送る防冠軍とひききとブカラテ契利年
 百尔西亜ホノ互市と利とひききと度大あり
 冬と古車とひききと貨物と轉送す

魯西亜去止

實政^辛孟春初六創譯十七日平世系

安永年間林子平の著の長崎府尹ルはて
 彼地在銀の阿葉院人加比丹ウルヒヘイト
 といふものと對信へイト信云道にラロとヤ
 人きくしあを城とエゾと招諭とるふちり
 甚奇極と極とさうと干支と玉用
 暴徒とるさびエゾハ字地めも胡椒と金

しり〜水きと凌ぎを温袍とよ〜
と防ぎ又と砂糖其美と食りも或と醗
酒と呑と夷人の口とよ〜こづせ又と大地を
慕〜〜麻履とホ〜文武おの〜
エヅと〜おの〜馴懐〜
〜ラロニヤ人の大地と〜
ヘイド信れ〜子平云ラロニヤ人のエヅと
其志言是懐〜エヅとが〜日也
拓諭〜〜墟〜必〜ラロニヤ人の

〜時降と遠〜及ぶ〜
の女無エヅ地入〜お玉の商估ぬ人と拒
束〜〜若拒束〜〜速〜
〜災の相和と除〜後使〜教諭
セガ〜カラフ〜松平〜
凡俗〜
右天明五年と去〜事ホ二年と〜文化と
寛政九月上旬の比ラロニヤ赤人エヅ地ク
シヨコシ〜あり〜日也〜
〜
〜

天明五年己卯
三國を以て中



